

みみタロウ

日本語版 ☆ 138 号 2021 年 1 月

滋賀県国際協会 ボランティアグループ「みみタロウ」

住所：大津市におの浜1-1-20 ビアザ淡海 2F

Tel : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

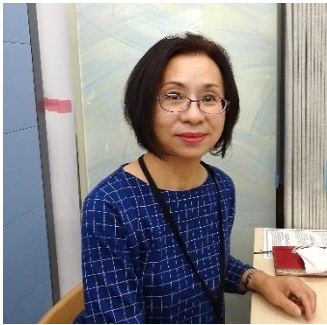
URL : https://www.s-i-a.or.jp

Facebook : https://www.facebook.com/siabiwako



文化の狭間で想うこと

今回みみタロウは、通訳や日本語講師をされている路杰さん（近江八幡市）にお話をうかがいました。



日本人と結婚し、
近江八幡市に住んで22
年になります。日本語は、
高校、大学で勉強した
ので、来日後は企業の
通訳をしていました。子
どもが生まれてからも
仕事を続けていました

が、子どもが幼稚園の時、子連れで中国に3年間単身赴任しました。しかしこのため、子どもには言葉で苦労させることになり、帰国後は日本語を話せなくなっていました。それで私は仕事をやめ、学校で子どもに一か月間付き添うことにしました。このことをきっかけに、学校の通訳や日本語指導をするようになり、今も続けています。

これまで、通訳を通していろんな人や場面との出会いがありました。その中で感じてきたのは、人の思いを伝えるには、単に言葉の通訳だけでは不十分で、そこには文化の理解が必要だということです。例えば運動会でのことですが、中国から来たばかりのお母さんが「うちの子は足が速いの、自立たなかった」と不満に思われることがありました。こうした背景には、中国の運動会は競争という意味合いが強く、そこで走るのには選ばれた子どもだけで、他の子ども達は応援をするという運動会自体の在り方の違いがあります。日本の運動会が全員で運動を楽しむものだという文化の違いについての説明があって、ようやく理解に至りました。

その他、表現方法でも随分異なっていて、中国人ははっきりと物言う文化があるで、曖昧な表現の多い日本では、モヤモヤした気持ちになることがあります。どの人も自分の文化を持っていて、考え方を考えることは容易ではありませんが、理解しようとすることはできるし、自分も理解されるとうれしいですね。ですので、お互いの文化を学ぶことは異なる文化を持つ人同士のコミュニケーションでは、とても大切だと感じています。

文化の違いは、特に子どもにとって大人以上に大きく感じられるものです。外国人の子どもは、まずは言葉が十分でないことが意思疎通の壁になりますが、言葉ができるようになってもお、文化的な背景の違いから、思いを十分伝えられない部分が残ることがよくあります。また、家では中国文化、学校では日本文化と二つの文化をまたぐ環境にいる子どもにとって、親や日本人の友達に言えない悩みを抱えることもあります。そんな時、同じように二つの文化の間にいる私は、日本人の友達との付き合いなどの悩みも相談できるちょうどいい存在で、私自身も子どもたちのことを親戚の子のように身近に感じています。

今や県内に様々な外国人が共に住む時代となりました。そんな中で、中国人は、その国民性からか、それぞれ一人で頑張る人が多いように思います。一方、人とのつながりもとても大切で、特に困った時など、すぐに相談窓口など誰かに相談できればいいですね。ところが実際には、悩み事を話すことはなかなか勇気がいるもので、しかも一人で抱えると、思い詰めてしまいます。コップは上から見ると丸しか見えなければ、別の角度からは違う形が見え、美しい色や模様が楽しめるように、視点を変えると別の光景が見えますね。何かに行き詰まったら、外に出て新鮮な空気を吸って、人と話したり、新しいものに触れたりすると、少し心が楽になるのではないのでしょうか。そして様々な考え方や新しい情報に触れる中で、自身も成長していくのだと思います。

私自身は、振り返ると恥ずかしいのですが、若いころは自分のことばかり考えてきたように思います。最近では、歳のせいか考え方も少し変わり、人との出会いが何より大切に思えてきました。それでここに住む者同士、助け合いながら共に楽しい時間を過ごせればと、昨年、仲間と「滋賀県帰国者華僑華人連合会」を創立しました。そしてこれからも色々な人の間で、豊かな「今」を重ねていきたいと思っています。